

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2019年4月15日

【2019年4月6日～2019年4月12日までの推移】

【1】先週の回顧

ブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに概ね横ばいで推移しました。また、2年国債金利は上昇しました。年金改革法案の下院憲法司法委員会での票決(今週4月17日(現地、以下同様)に予定)や、マイア下院議長の発言を巡って市場の警戒感が高まる展開となりました。

先週半ばまでのブラジル・レアルは、下院憲法司法委員会を通過するのに必要な票(過半数以上)が既に得られているとみられていたことや、下院憲法司法委員会に提出された法案が仮承認されたことなどから、堅調に推移しました。

しかし、週後半にマイア下院議長が法案承認に否定的なコメントをしたことで、再びボルソナロ大統領との軋轢が意識されたことや、現地紙が「中道政党は、政府の予算権限を制限する憲法改正案が承認されるまで、年金改革法案の下院憲法司法委員会での票決を延期させる方針」と報じたことなどが嫌気され、ブラジル・レアルは売られ、金利は上昇しました。

経済指標に関しては、2月の小売売上高や3月のIPCAインフレ率などが発表され、小売売上高、インフレ率ともに市場予想を上回る伸びとなりました。足元のインフレ指標が市場予想を上回ることが多くなってきていることから、ブラジル経済の回復が加速し始めている可能性があり、今後の動向を注意深く見ていきたいと考えます。

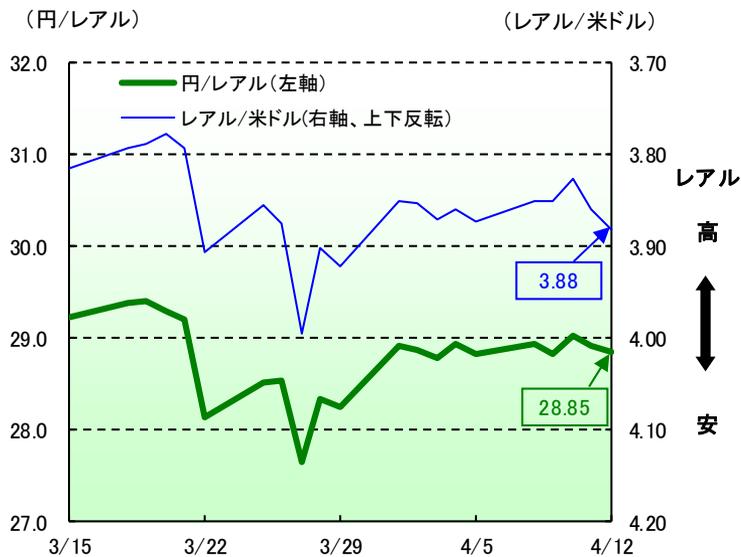
【2】今週の見通し

今週は、経済活動指数などの経済指標の発表が予定されています。

4月17日に予定されている下院憲法司法委員会での票決は、問題なく通過するとみられていますが、上述の通り、再度延期される可能性もあります。また、下院憲法司法委員会の次の段階である下院特別委員会では、法案がさらに協議される見通しであることから、予定通り17日に通過したとしても引き続き過度の楽観論には注意が必要と考えます。

【ブラジル・レアル 為替推移】

(2019年3月15日～2019年4月12日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2019年3月15日～2019年4月12日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>